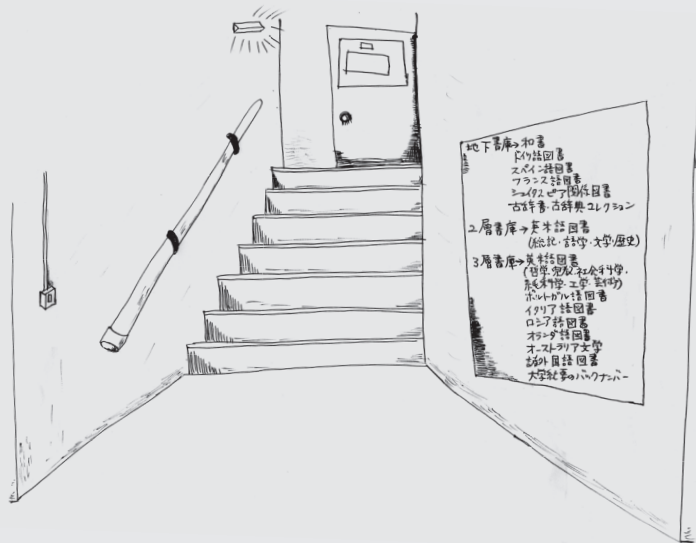


# Library Sketch



ライブラリー・スケッチ

## 「書庫」

皆さんは書庫に足を運んだことがあるでしょうか。図書館には約54万冊という膨大な量の蔵書がありますので、閲覧室にあるのはごく一部で、残りの大部分は書庫に保管されています。図書館職員が借りたい本を探してきてくれるサービスがあるために、普段は自分自身で書庫に入り本を探す機会が少ないかもしれませんが、書庫にはたくさんの良書が眠っていますの

で一度入れば驚きと楽しさの発見の連続です。こんな本があるのか、と見ているだけで楽しいものです。図書館カウンターで手続きをして利用許可証を借りれば入庫できますので、ぜひ一度、書庫を冒険してみたいはいかがでしょうか。

近藤 伶依香 (2012年度スペイン語学科卒業生)

4月のピックアップコーナー

## ●「日記」

日本では日記の形態をとった文学のジャンルが世界でも類を見ないほど発達しました。特に、平安時代から鎌倉時代にかけて主として女性によって仮名文で書かれた作品は、文学性に富んだものが多く、『土佐日記』、『紫式部日記』、『更級日記』、『十六夜日記』などは古典の教科書や副教材でもよく取り上げられています。近代から現代にかけては、夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、志賀直哉といった文豪たちの日記が挙げられますが、作家と作品の関係を知る重要な資料とされています。他に、『断腸亭日乗』(永井荷風)や『ローマ字日記』(石川啄木)などが挙げられるでしょう。外国の日記では、『アンネの日記』(アンネ・フランク)、『アミエルの日記』(フレデリック・アミエル)、『ゲバラ日記』(チェ・ゲバラ)、『ピープス氏の秘められた日記』(岩波書店)、『ある首斬り役人の日記』(フランツ・シュミット)などがあります。

幕末から明治にかけて日本がどのような状

小澤 文彦

態だったか興味のある方には、その当時来日した外国人たちの日記がおすすめです。ケンベル、アーネスト・サトウ、ヒュースケン、トク・ベルツ、マシュー・C・ペリー、レザーノフなどの日記があります。

外国で暮らしてみたいと思っている方には、ある程度長期に亘って生活したことのある日本人たちの日記が参考になるでしょう。また逆に、日本に来て長期滞在している外国人たちの日記も比較文化の上で面白いかも知れません。

図書館所蔵の資料をパソコンで検索すると、膨大なデータが存在しているのが解ります。その中から、是非とも興味のある日記を探し出して読んでみて下さい。時間と空間を飛び越えて、日記を書いた人と直に対話している自分自身を見出すことが出来るでしょう。

おざわ ふみひこ (情報サービス課)